

## 平成30年度第1回亀山市総合教育会議 会議録

日 時 平成30年5月10日(木) 午前11時00分から午後0時10分まで

場 所 市役所西庁舎3階第5会議室

### 出席者

(市長)

櫻井 義之

(教育委員会)

教育長

委員

委員

委員

委員

(事務局)

総合政策部長

総合政策部次長

総合政策部政策課長

教育委員会事務局教育部長

教育委員会事務局参事兼生涯学習課長

教育委員会事務局教育総務課長

教育委員会事務局生涯学習課図書館長

服部 裕

井上 恭司

大萱 宗靖

太田 淳子

宮村 由久

山本 伸治

落合 浩

豊田 達也

草川 吉次

亀山 隆

原田 和伸

井上 香代子

### 議 事

- 1 市長あいさつ
- 2 亀山市立図書館整備基本計画(案)について

## 開会

事務局

本日はご多用中にもかかわらず、総合教育会議にご参集いただきありがとうございます。

本会議は亀山市総合教育会議要綱第6条により「公開」会議となっております。また、第7条により議事録につきましては、市ホームページにて公表をさせていただいております。予めご了解くださいますようお願いいたします。

## 1. 市長あいさつ

事務局

それでは、事項書に基づきまして進めさせていただきたいと思えます。

まず、市長、ご挨拶をよろしく申し上げます。

市長

皆さんこんにちは。教育長並びに教育委員の皆さまには公務ご多忙の中にも関わらず、本年度第1回の総合教育会議にご参集いただきありがとうございます。

また、平素、委員の皆さま方には日頃から本市の教育行政の推進に大変ご尽力いただいておりますことに、心から感謝を申し上げます。

さて、本日の総合教育会議につきましては、教育委員会からの要請に基づき開催いたしました。内容につきましては、市立図書館整備基本計画（案）についてとりまとめたいただきましたので、ご報告いただき、協議してまいりたいと考えております。よりよい公共施設としての図書館の実現に向け、市長部局、教育委員会が連携して取り組んでいけるよう有意義な意見交換を行ってまいりたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。

第2次総合計画がスタートして2年目、「展開の年」を迎えております。図書館整備を含む、駅周辺整備につきましても大きく動き出しているところでございます。今後においても、図書館の駅前の再開発ビルへの移転ということで、様々な協議・調整を図る必要が出てくるのではないかと考えております。引き続きまして、教育委員会、教育委員の皆さまと対等な関係の下、さらなる連携を図って、英知を結集できるような有意義な場として、本市の教育行政の前進につなげていければと考えております。

今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。簡単ではありますが私の挨拶とさせていただきます。

## 2. 亀山市立図書館整備基本構想について

事務局

ありがとうございました。

それでは次に、「事項2 亀山市立図書館整備基本計画（案）について」でございます。

この事項につきましては、先ほど市長からのご挨拶でもありましたとおり、教育委員会からの協議の要請事項となり、資料をご提出いただいております。教育委員会事務局より、ご説明をお願いします。

教育委員会事務局

（資料に沿って説明）

・資料 亀山市立図書館整備基本計画（案）について

事務局

ありがとうございました。

ただいま「亀山市立図書館整備基本計画（案）」について、教育委員会事務局より説明を受けたところでございます。

現在の市立図書館につきましては、平成28年10月の会議の際に、「亀山市立図書館の今後の方向性」についてご報告いただき、その方向性に基づき、昨年度に基本構想を取りまとめいただいたところでございます。

先ほど、説明がありましたとおり、新しい図書館の考え方につきましては、基本理念を「学びの場からつながる場へ」とし、読書活動により高まる知（ち）、読書活動から広がる学び（ま）、学びの成果の体現と交流を楽しむ（た）をコンセプトとしていただきました。

また、図書館規模や蔵書数などの目標や求められる機能やサービスについてもお示しいただきました。市長部局といたしましても、基本理念や基本方針の具現化のために、その方向性に即した図書館整備を進めてまいりたいと考えております。

それでは、ご意見等ございましたら、お願いいたします。

市長

教育委員会で取りまとめていただきました基本計画（案）につきましては、基本理念であるように図書館が「学びの場からつながる場へ」となり、市全体の文化や教育力の向上につながるよいうという大きな理念を掲げていただいております。一部、財源や敷地面積など制約もあるわけでございますが、整備に向けまして、心合わせをして、私どももしっかり取り組んでまいりたいと考えております。

ご報告の中にもございましたが、現在の図書館は、収蔵スペースや図書の保存環境などの構造上の問題に加え、館内サービスや図書館に附帯する施設など、環境充実に向けた課題を有しているところでございます。この館内サービスや図書館に附帯する施設などの図書館に求められる機能とサービスについては、ここに至るまでに、市民ワークショップや様々な意見交換会の開催や意見募集など、多様な市民の声を集約いただき、このようにまとめていただきました。この間のご尽力に心から感謝申し上げます。

そして、総合計画に位置付けております、戦略プロジェクトの1

つであります「JR亀山駅周辺拠点力向上」プロジェクトにおきましても、昨年度、亀山駅周辺の再生を進める上で、図書館を核とした「学び」と「まちづくり」によるぎわいを創出するため、そこに備えるべき附帯機能について、庁内横断的に検討を重ねてまいりました。その内容につきましても、基本計画（案）に盛り込んでいただけてきたと承知をいたしております。今後におきましても駅前整備を進める上では、図書館整備との連携が必要不可欠であろうと考えておりますので、戦略プロジェクトをはじめ、担当部署間の連携につきましても、より一層密に連携させていただき、教育委員会、そして私ども市長部局、それぞれの権限に基づき事業を進めていきたいと考えております。

本当にいろいろとご尽力いただきまして、感謝申し上げます。今後さまざまな場面で協力をお願い申し上げます。

事務局

ありがとうございました。

それでは、委員の皆さま方からそれぞれご意見を賜りたいと思います。ご意見がありましたらよろしくお願いたします。

委員

市長のお話の中で、財源の制約や広さの制約との話もございましたが、この計画の内容は盛りだくさんであって、大人から子どもまで、誰にでも行き届いたサービスを提供していかなくてはならないなと思っております。そのためには、職員を増やし、また、ICTを駆使していく必要があると思います。特にコンピューター関係のシステムには非常に経費がかかるものだと思います。

具体的なことは計画に記載はありませんが、箱の中に閉じ込めるのではなく、建物自体も亀山市のシンボルになって、「亀山に来たら図書館を訪れなくては」、「亀山に住みたいな」と思うような、こだわりをもった図書館を作っていっていただきたいと強く思います。そのためには、図書館整備の予算に重きをおいて、一緒に協力してよいものを作り上げていきたいという気持ちがございます。

図書館には駐車場も必要です。駐車場は無料で、また、駐車場利用の方も徒歩の方もスムーズに図書館を利用できるような形をとっていただきたいと思います。

よろしくお願いたします。

委員

要望が2点ございます。

1点目については、この世の中、働き方改革について言われている中で、教育委員会事務局の方にはご尽力いただいております。土日も何回も出勤いただいて、市民ワークショップや民間の団体の方を対象とした会議を二十何回開催していただいております。その話し合いの結果をベースにして、この基本計画をまとめてきたというのが、非常に特徴のある計画であると思います。市民の声の拾い上げについては、まだ一部かもわかりませんが、各界各層の意見を取りまとめる努力をした中で積み上げてきた計画であります。

これから駅ビルの基本設計に入って行くわけですが、ぜひ、取り込んでいただきたいと思います。もちろん、予算や敷地面積の制約はあるわけですが、知恵を出し合って、進めていただきたいと思います。駅前に図書館を作ろうということに関しては、共有させていただいているので、よりよい図書館、シンボルになるような図書館にしていただきたいと思います。

それから2点目は、前回の会議で「超図書館」と発言させていただきました。超図書館の具体的なイメージはないのですが、今回、コンセプトとして多機能型図書館を作っていくとまとめていただいて、私としても非常によい計画にまとまってきたなと感じております。この計画では、あれもこれもというように、てんこ盛りの状態になっているので、いよいよ基本設計になれば、あれかこれかと選択する議論も必要になってくると思います。ぜひ、この計画をベースに検討していただきたいと思います。

その中で懸念とする部分があります。駅前ににぎわい空間をつくらうという発想を基に図書館をつくらうということになったことについてはよろしいと思います。この計画の中では、図書館のにぎわい空間を創出するために、お茶を飲むことができる空間やいろんな機能を盛り込んでいますが、図書館の核となる機能としては、開架・閲覧機能であると思います。にぎわい空間と図書館の本来の機能である閲覧機能については、二律背反になる可能性もあると思います。あれかこれかの議論となり、選べないときには、開架・閲覧機能の方が重要であると思うので、これからの詳細設計の中では、ぜひ重要に考えていただきと思います。

合わせてですが、駅前に建設する図書館ですべて満たせればよいが、あれかこれかと選択することになり、すべてを満たせない場合には、現図書館のエリアを文教や文化のゾーンとして、利活用の検討を行っていただきたいとお願いしたいと思います。

よろしく願いいたします。

委員

他の委員さんと重複するところも多いと思いますが、私の意見を述べさせていただきたいと思います。

新図書館の建設にあたっては、お示しをさせていただいた基本計画を最大限尊重してもらおうということで、強く要望をいたします。

その中で私としては、大きく3点お願いをしたいと思います。

1点目は、図書館本来の役割を尊重していただきたいと思います。新図書館には従来備えていなかった新たな機能が付加されるということで期待も大きいわけですが、図書館の本来の役割をきっちり固めていく必要があると思います。つまり、図書館の役割というのは、図書の収集や、それを整理し、保存していくことでもあります。そして、市民に提供することであると思います。そのことによって、市民の教養や学びの向上が実現していくのだと思います。本来の機能を尊重していただき、その結果、市民から信頼をされて、愛される図書館にしていかなければならないと思っております。

す。同時に、そのことを可能とする人員配置も不可欠であると思います。ぜひ図書館本来の役割を尊重していただきたいと強く要望します。

2点目については、コンパクトシティという言葉をよく耳にしますが、一定のエリアに機能が集約化されることで得られることは多いと思います。一方で、失うものも多いのではないかと懸念されるわけです。個性ある文化活動が市内全域で展開される、例えば、各地域のコミュニティセンターを核として、展開されるということ強く望んでいます。

3点目については、図書館に相応しい環境整備をお願いしたいと思います。基本計画を見ていただいても、様々な環境整備について述べられています。図書館内外、敷地内、周辺環境が整備されて、それぞれの調和が図られることを望みます。「亀山市というのは文化を大事にしている市なんだ」と実感、発信できれば素晴らしいと思います。ぜひ、図書館に相応しい環境整備をお願いします。

委員

皆さんの発言と重複しますが、2点あります。

人員配置については、図書館自体が大きくなるので通常作業増による増員ももちろんですが、リピーターを増やす努力も必要であると思います。駅前に新たに図書館ができるとなると、一度は来訪されると思いますが、その時だけの来訪になるかもしれませんので、リピーターを増やしていかなければならないと思います。リピーターの獲得について考えていくのは、図書スタッフの仕事になると思いますので、図書スタッフはいろんなアイデアを出し、事業を長年に渡り実施していくわけです。そのため、「人」というのは大事であると思います。計画的に職員を増やすことに加え、女性だけでなく男性配置についてもお願いしたいと思います。

また、駅前のビルには、図書館だけでなく、色々な商業施設も入るのだと思います。前回の会議でも発言しましたが、高齢者や子どもの安全面は大切であると思います。教育委員会としての図書館の内容についてはもちろんなのですが、道路のことや防犯などについても配慮していただきたいと思います。

事務局

教育委員の皆さまからご意見をいただきました。

少し要約をさせていただきますと、まず、財源や建設面積の制約があるにしても、しっかりとした職員体制をとり、またICTを活用した図書館にしてほしいということ。また、図書館そのものが市のシンボル、ランドマークとなるような形で整備をお願いしたいということでございました。また加えて、駐車場の充実ということもご提言をいただいたと思います。

また、働き方改革が叫ばれる中で、教育委員会事務局がしっかりとワークショップ等での意見を集約していただいたので、これは最大限尊重してもらいたいということ。また、前回会議でもご発言いただいた「超図書館」という様々な多機能型のコンセプトがある図

書館であっても、図書館本来の機能をしっかりと考えた上で進めていってほしいとのことでした。加えて、文教ゾーンとしての現図書館の跡地の利活用についてもご意見いただきました。

また、基本計画を最大限尊重するという中で、図書館本来の役割、図書の収集・保存・提供が市民の学びの醸成につながるというご意見、個性ある文化が市内全域に広がって、22地区に存在する自治活動の展開ともリンクしていくもののご意見、図書館に相応しい環境整備についての3点のご意見をいただきました。これは他の委員さまのご意見とも関連すると思いますが、すべての環境に配慮した図書館であってほしいということであったと思います。

それ以外には、人員配置の話の中で、リピーターを増やす努力、これはスタッフの人的・質的な充実にかかってくるものであるとのことにご意見に加え、安全面に配慮した環境整備についてのご要望であったと思います。

4人の委員のご意見につきまして、市長、ご意見がありましたら、よろしく願いいたします。

市長

それぞれに大変重みのある、また率直な、大事な視点でのご意見をいただいたと思います。当然、今おっしゃられた視点をいかに具現化していくのかということについては、今後、しっかり整理していきたいと思っております。

1つに制約のある財源、面積、今、いくつか触れていただきました相応しい環境、本来の図書館機能を軸にした考え方というものを基本設計の中に入れていくプロセスというのは、今回の複雑な駅前ビルに公的機能を入れていく中で、今回策定いただいた基本計画を具現化していくのは、他の学校整備と同じようなプロセスが必要であると思いますが、それよりも高度な調整や設計、建築の英知の結集が大事であろうと思います。

それぞれ4人の委員さんがおっしゃられた視点、これを基本設計に組んでいく過程におきまして、それぞれの連携の力でもって、これを実現していきたいと思っております。この基本計画案を尊重していただいてほしいという思いはしっかり受け止め、進めていきたいと思っております。

それから、これを運営していく体制や人員配置、ICT活用などのシステム運用についてのあり方につきましては大変重要だと思っておりますので、これらの視点についても、展望と裏付けをもって整備していく必要があると改めて認識をさせていただきました。

行政の主導で進めていくということではなく、多くの声を聞いていただいた中で集約いただいた点におきましては、計画の重みをしっかり受けとめておりますし、様々な制約がある中でこれを具現化していく過程においては、繰り返しますが、ぜひ引き続いて皆さまの英知をお借りして進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。貴重なご意見しっかり受け止めさせていただきます。ありがとうございます。

事務局

ありがとうございます。教育長の方からご意見がございましたら、よろしく願いいたします。

教育長

かなり事務局スタッフ、労力を厭わないと言ってもよいほど、突き進んできたのを目の当たりにしました。また、取り組んでいただいた中では、中井教授と横山教授にお力添えをいただいております。中井教授につきましては、毎回ワークショップに参加していただいております。この中井教授は、図書館建設の第一人者であり、来館者の動きなどを徹底的にデータ分析し、最先端の情報処理等も行いつつ、そういった話も盛り込みながらワークショップに参加していただいております。そのワークショップの雰囲気は「最高である」、「他市には見られない雰囲気よさがある」と毎回言っていただきました。そういった中で進められてきたということも申し上げておきたいと思います。

これを踏まえて2点目ですが、今はあれもこれもの計画となっており、今後はそれを削り落とす作業があるというような空気を感じたのですが、ワークショップで意見がたくさん出て、それを全部寄せ集めて組み立てたのではありません。ワークショップの参加者、推進委員会の委員自ら、「なんでもかんでもは無理があるよね」、「財政も限りがある」との認識を持っていただいた中で、ワークショップや推進委員会で精査を行った計画であります。ですので、誇れる計画でもあります。

計画には必要なゾーン・機能、サービスを挙げておりますので、削り落としていく発想はできる限り除いてほしいという思いがあります。工夫次第でこれを生かすことができるかと思っております。その点では建設部等と一体的に進めることが望ましいのではないかと思います。戦略プロジェクトという場もありますので、計画ができたので1歩2歩退くのではなく、作った以上、一定の責任を担いながら教育委員会も今後の設計に、あれこれと口を挟むつもりはありませんが、一体的に進めることができたらと思います。

3点目ですが、図書館がビルの中に入るという性格上、組合の方やテナント、駅前住民の方などの関係者の方に必要に応じて、強い働きかけも必要ですし、信頼関係の中での連携をしていかなければ、来てほしいテナント、ショップ等も来ていただけないのではないかと思います。関係者との信頼関係の中での駅前ビルの中に図書館があるということになればよいと思います。

4点目は、運営の話も出ましたが、開館日・開館時間のことも含めたソフト面での議論につきましては、市民ワークショップも推進委員会も継続しますので、今後、取りまとめた意見については、一定それについてもできる限り尊重していただきたいなと思います。

設計については、その進捗状況をぜひ教育会議を適切な時期に開いていただいて、このような絵を描いているというような情報提供を計画の決定前に教育委員さんにも紹介していただければありが



たいと思います。

勝手なことばかりかもわかりませんが、よろしく願いいたします。

事務局

ありがとうございました。今、特に市長、教育長からは、今後の進め方の中で、奇しくも今回の図書館の基本計画の策定と駅ビルの基本設計につきましては、同一の業者が担当しているということで、一体的整備というのは、業者が異なるよりもスムーズに進めていけるのではないかと事務局としても思っております。また、今後、駅ビルについては、基本設計から実施設計にいよいよ移って行く段階でございますが、例えば、図書館の外装、内装、間仕切りなど、こういったものが具体的に記されていく段階へと移行していきます。そういった中で教育長からもありましたが、設計に関しては、その都度、また総合教育会議等も活用しながら、各委員さんにも確認をいただきながら丁寧に進めてまいりたいと考えております。

教育委員の皆さま、市長、教育長からそれぞれご意見をいただきましたが、全体を通じまして、ご意見があればお願いします。

委員

先ほど、教育長のほうからテナントの話がありましたが、今回、駅前開発のところへ図書館が入るということで、そこには図書館以外にマンションやテナントが入ると聞いていますが、本当にテナントは入るのですか。

事務局

駅前の土地の部分につきましては、保留床と言いまして、床を買うイメージになります。その中で、市も保留床を買うということで市も組合に入ります。テナントに入っていただく方も同じ条件で、床を買う、もしくは借りることになります。原則は買うこととなりますので、テナントの方も組合員になるということで考えていただいていると思います。

委員

先ほど教育長からご意見もありましたが、組合とやっていかなければならないということで、高度な交渉というか、連携になるのだろうと思います。例えば、テナントが来ないということもあるのでしょうか。組合員さんがどれだけ図書館に思い入れを持ってくれるのか、Win-Winの関係になってこないと組合員さんもよい図書館を作ってたくさんの人に来ていただくという気持ちを持っていただけないと思いますので、そのようなことがないようにしていただきたいと思います。

市長

第一種市街地再開発事業という手法で、第2ブロックの経営者の皆さんが、足並みを揃えて、自らの財産である土地を集約して土地利用の高度化を図ろうという事業であります。再開発事業組合の設立に向けては、最終段階に入ってきておりますが、組合が作る再開発ビルの床を掘くことによって、全体の事業費用を調達していくと

いう仕組みでございます。その中で、公的機能として3,000㎡、13億円と想定をしましたが、この床を公共で調達をさせていただきます。これが再開発事業の中の18億、19億円の床を捌かないと全体が成り立たない中で、私どもは約8割前後、公的機能を導入する形で図書館を軸とした機能を入れていこうとしたわけであり、権利者の皆さんが、公的機能の図書館を軸として入れていく中で、信頼関係や愛着などを感じてもらわないといけないということは当然のことで、経営者の皆さん自身も同じような思いを持っていただいていると思います。期待感も当然持っておられるし、そういった中でこの事業が今日ここへ展開していますので、今後につきましても、私どもとしてもしっかりと関与させていただいて、これがスムーズに前に進んでいくように努力をいたしたいと思います。組合員の皆さまとの接点については大事なことだと思いますので、改めて我々も配慮してまいりたいと思います。

委員

組合員の方は事業費をかけないようにしようと思うことはないのでしょうか。図書館などの外観にお金をかけないようにしようという発想はないのでしょうか。

テナントに入りたい人が多い場合は別であろうかと思いますが、売ることが一番になれば、お金をかけないことを重視するのではないのでしょうか。

事務局

委員からもご意見いただいたとおり、駅ビルそのものが、シンボルやランドマークであると思います。それを作り上げるのは、駅前の組合員の皆さまであり、市もその一員です。駅前の再開発については、組合に属する人達がどんなビルにして、駅にしていくかをみんなで考えるということが非常に重要であると思います。逆に、組合の方々も殺風景なビルが1つできるだけでは、なにも駅前の再生にはならないと認識を持ってみえるので、そのビルが再生のキーワードとなるようなビルに仕上げるということが、組合員の皆さまも、市としても究極の目的であるということ是一緒だと思っております。

市長

準備会の皆さんも全国の先駆的な図書館の事例について研究されたり、自ら足を運んで感じてこられたりしていると伺っておりますので、理解や関心は高いと思います。

委員

シャープが亀山に進出したときに、シャープ関係のサラリーマンの方が鉄道で亀山へ来て、亀山駅の前を見て落胆されていた。駅前ビルの建設によって、「亀山はすごいな」と言ってもらえるようにしてもらいたいと思います。

市長

当然そうであると思います。申し上げたとおり、周りの環境も含めてですが、作り上げていきたいと思っております。公がその役目をしつ

かりやっっていくということだと思います。

事務局

他にいかがでしょうか。

委員

質問なのですが、駅前のにぎわいを創出することについては、私も大賛成であり、ぜひともそうなることを望みますが、にぎわいを創出するための具体的な取り組みの1つとして駅ビルを建設して、図書館も入り、テナントも入りとのことでもあります。駅ビルが鍵になるのだと思いますが、これ以外の要素、これ以外のにぎわいを創出させる具体案はあるのですか。駅ビル以外に具体案はあるのですか。

事務局

私は駅ビルのみでは、にぎわいの創出はできないと考えております。コンパクトシティについてのご意見も頂戴いたしましたが、やはり駅が地域公共交通の拠点になるべきだろうと考えております。乗合タクシーを今年度から新たな施策として進めてまいります。例えば、乗合タクシーであったり、バスであったり、鉄道、そういったものが、1つの拠点となって、地域と都市部を結ぶ拠点、地域公共交通が発展していくことによって、また駅の再生につながると思います。それが1つの起爆剤となるのかなと思います。

やはり駅というのは、活用されてはじめてにぎわいをもちます。現在の亀山駅の乗降客等を考えますと少し寂しい状況であると思いますので、駅のにぎわいを保つためには、都市部と地域を繋ぐ地域公共交通というのは非常に重要な視点であると思います。

委員

にぎわいというのは人の往来と繁盛であると思います。図書館ができて、年間10万人が利用したとしても、それは出入りであって、決して往来には繋がらないと思います。テナントがいくつ、どのようなものが入るかはわかりませんが、例えば、医療機関が入れば患者さんが来ることになります。往来と繁盛というものが無い限り、駅前のにぎわいの創出はないと思います。駅ビルが核になるかもしれませんが、図書館の利用者がにぎわいを創出することにはならないと思います。にぎわいを創出するよいアイデアというのはあるのでしょうか。

事務局

市では、立地適正化計画を作成しており、駅前開発はその1つの計画にしかすぎません。駅前を1つのエリアとし、また、井田川駅、関駅を副次的な都市拠点としまして3つの駅をそれぞれ拠点としてまちづくりを進めていくことになっております。委員がおっしゃるように、駅ビルができただけでは、当然にぎわいは創出できないと考えています。にぎわいを創出していくには、中心的都市拠点として定めているゾーン全体を発展させていく必要があります。その1つのキーとして駅前の開発を進めています。将来的に一体的なにぎわいを創出するためには、商業も必要ですし、医療ゾーンも必要だ

と思います。立地適正化計画の中では、公共施設も含めて記載をしておりますので、公共施設も含めた都市拠点を集約させることで、にぎわいを創出していくという考え方でございます。

委員

感想でございますが、私が子どもの頃の亀山駅前は今整備された亀山駅前よりもう一つ前の形でありました。それが今のように整備されて、再度、駅ビルを中心とした駅前の再開発をしようということでございます。現在の駅前は、モータリゼーションの進展や時代の進展で古くなってきたのだと思いますが、次を見越して考えていくということは、市長もおっしゃられたように、重要な視点であると思います。歴史は繰り返すではないですけど、やってみたが、駅ビルだけであったというのではもったいない話になりますので、あのゾーンの開発をしていってもらえればよいと思います。その一助として図書館があれば、我々計画に参加したのも幸いですので、ぜひやっていただきたいと思います。

委員

市域全域での読書活動の展開については発言をさせていただきましたが、集約されれば周辺の衰退につながるのではないかと思います。住居まで中心部に集約されるということになりますと個性のないまちができてしまうのではないかと思います。読書の場合には各コミュニティセンターを核とした文化活動が展開されていれば、商業施設はなくても自分達の地区の活動の誇りにつながるのだと思います。そういったものへの目配りが必要ではないかと思います。以前の図書館では、移動図書館を運営していた歴史があります。その時にはコミュニティセンターはありませんから、車に図書を積んで、巡回して貸し借りを行っていました。そういった手当というのにも必要になってくるのではないかと思います。

教育委員会事務局

地域の読書拠点という視点は大事にしていきたいと考えています。この基本計画の中にも地域における読書活動拠点ということで、開架・閲覧機能の中に入れていますが、身近な場所で読書に親しむことができるように、巡回で各コミュニティセンターで読書活動ができるように、学校図書も含めてですが、ネットワークづくりに取り組んでいきたいと思っております。

委員

これが実現するかしないかということが重要であると思います。

市長

市街地の中心部分との一体感というのは今後も調和をとっていくような都市政策をとっていきたいと思っておりますので、そういう意味では、まちづくり協議会などがしっかり機能いただくということが、市としては大事な視点であると考えております。また、既にその動きはありまして、読書ということだけではなくて、文教的な視点でまちづくり協議会が特色を生かして活動していくことに対しましてサポートをしていこうと考えておりますので、しっか

り取り組んでまいりたいと思っております。そこはご安心をいただきたいと思えます。

委員

ありがとうございます。

事務局

ありがとうございます。お時間にもなつてまいりました。

特に、委員の皆さま方からは、図書館本来の役割をしっかりと見据えた上で、市域の中で文化を発展させていってほしいということ。駅前に相応しい環境として図書館を整備する。その中には、スタッフの質的、人的の充実は欠かせないというご提言もいただきました。

また、市長、教育長からは、様々な整備を今後進める中で、駅前と図書館の設計については、総合教育会議を活用しながら、皆さま方にもご確認いただきながら、丁寧に説明をして、進めていくということでご意見を賜りました。

これらの意見について確認をしたということで本日の事項について終了させていただきます。

会議閉会

市長

本日は貴重なご意見を頂戴したと思えます。限られた時間でしたが、極めて有意義な心合わせの機会であったと思えます。本日議論いただいた意見については留意をさせていただいて、今後、それぞれの事業をしっかりと進めていきたいと思えますので、教育長並びに教育委員の皆さまには、ぜひ今後ともよろしくお願ひしたいと思えます。

本日はありがとうございました。